

秋田県
退職校長会

会報

題字 秋田師山 書

第 106 号

秋田市手形学園町1-1
秋田大学教育文化学部
同窓会旭水會 内

令和 8 年 3 月 28 日 発行

秋田県退職校長会



大 雨 ・ 熊 ・ 詐 欺

秋田県退職校長会 副会長 米 澤 喜 彦

退職して早十年が過ぎようとしている。古希を迎え退職後十年間継続していることと言えば、一つは本退職校長会である。今一つは町内会の役員である。厳密に言えば十年には至っていないが、町内会長として十年目を迎えようとしている。

町内会に関わるようになったのは、現職時代、忙しさにかまけて、町内関係のことは父母に任せっきりであったことを父母の死後、痛感・反省させられたからである。ただ、正直なところ現在のような状況になろうとは夢にも考えていなかったのだが。

本町内会でも自分も含め、高齢化が急速に進んでいる。そのような中であって、特に焦点となっているのが秋田県全体の課題でもあるが、表題の三点である。

大雨については、他の地域よりやや高い位置にある本町内では幸い大きな被害は受けていない。ただ、私の住む牛島、そして大住、仁井田、御野場地区は長年大雨による被害に悩まされており、日本では初めてのようであるが、平成三十年より、国・県・市が一体となって「古川流域の総合的な治水対策事業」として関連工事等が進められており、本町内でも「猿田川樋門」を建設中であり、その説明会が本町内で三度ほど開かれている。

熊については、昨年ニュース等で取り上げられることが多く、根本的な対策が必要と考えるが、本町内会館のすぐ隣の公園にも熊二頭が出没したこともあり、町内の見通しの悪い草藪の伐採を有志で行った。個人

でも自宅の栗の木を伐採した。

最後の詐欺については、結局は個々の自己防衛しかないように思うが、町内で毎月回覧している地区の交番便りも、詐欺被害に遭わないようにという呼びかけが増えたように感じている。警察や役所関係を語る手口が多いことなど役員会や総会等で注意を喚起していきたい。

さて、学校現場に目を向けたとき、課題は何であろう。もちろん、表題の三点も危機管理という視点からも、学校教育の中でも考えていかなければならない課題であろう。

事実、某中学校では生徒の半数以上の家庭が被害に遭ったやに聞いているし、登下校の児童生徒の鈴の音も定着したように思える。

昨年十一月、秋田市の現職・退職校長会懇談会で現職の方々の現状を聞く機会があった。三つに絞るなど、とうてい無理な話ではあるが、個人的には「教員・講師不足」「若手教員の育成やモチベーションアップ」「不登校を含め配慮を要する児童・生徒への対応」の課題が強く心に残った。

私自身、さしたる目的もなく教育界に身を置いた一人ではあるが、子どもたちや先輩教員との出会いが、一生をかけてなすべき仕事との自覚を持たせてくれたと今でも感謝している。本退職校長会の活動等もその一助を担えたらと願う。

先日、中学時代の教科担任で社会教育主事の先輩としても指導頂いた恩師がこの世を去られた。中学校長として教職に終止符を打たれたが、その後の人生も感心させられる活躍ぶりであり、まさに社会教育主事経験者の面目躍如というお姿であった。我々の同士には、「退職後は一人の地域住民として静かに暮らします。」という方が少なくない中、地域づくりの実践者として率先垂範、種々の役職もいとわず、趣味にも全力投球されていた。文頭恩師にご登場願ったのは、私自身の教職と退職後活動への向き合い方に社教主事経験者として大きな示唆を頂いたからである。

私の社教主事に至る経緯とその背景だが、教職一年目の小学校勤務の後希望していた中学へ、生徒や保護者対応にも慣れしてきた三年目に、校長から異動本部に行けとの命を受け、恐る恐る出かけたところ、「四月から市教委で社教主事補として勤務してもらいたい。」とのことお達し、正に青天の霹靂、学校教育すら覚束ない私に社会教育とは！生徒と共にある日々を願い教職に就いたのに、生徒の居ない職場への異動内示、事の重大さを受容できず校長に何とかしてほしいと懇願したものの、「私の力ではどうにもならない。」



秋田県退職校長会
常任理事 大山裕一郎

ひとこと

私にとっての社教主事体験

との返答。

斯くして社教主事補生活がスタート、与えられた机に張り付くのは苦行そのもの、自分の職名が長すぎて自己紹介も苦痛であった。夏には秋大での三十二日間に及ぶ講習受講、生涯学習社会の構築という国策の下、昭和四十九年に始まった派遣社教主事の国庫補助制度により、私は湯沢市二人目の県派遣職員となった。

思い返せば、派遣先では力不足で大して役に立てなかつたが、学校オンリーの見方考え方から、外から学校を見ることで、とかく自宅と学校の往復だけに終始していた自分も、地域の一員として共に歩まなくてはならないという、自明のことに気付かせて頂いた。平成十年に、個別事業助成から地方交付税措置になり、派遣制度は実質終了となったが、人生の後半に差し掛かり、「もし社教経験をしなかつたら？」と思うことがある。「熱心な指導」で教職を勤め上げる人も少なくないが、私が生徒相手の仕事に終始していたらどうだったのか？あの機会を下さった人事担当者や社教の先輩には感謝の気持ちで一杯である。

県事務局だより

事務局長 石郷岡 仁 司

今年度実施した主な事業

- 4・17 令和6年度監査 協働大町ビル
- 5・10 県理事会・総会 協働大町ビル
- 6・5 全連退理事会・総会 東京都「きゅりあん」
- 7・5 郡市長・事務局長合同の会 協働大町ビル
- 7・26 全連退会報第235号の発送 県会報105号の発送
- 10・7 全連退設立60周年記念式典・祝賀会 東京都アルカディア市ヶ谷
- 10・9、10 高橋一郎前会長に功労者表彰状贈呈 第51回東北地区退職校長会協議会
- 10・18 山形大会山形市「山形国際ホテル」 第45回秋田県秋季研修大会 協働大町ビル
- 11・1 あきた教育の日 各教育関係機関への協力依頼 各小・中学校へ葉書を送付
- 11・18 全連退会報第236号の発送 賀詞・寿詞を各郡市事務局へ発送
- 1・7 全連退会報第237号の発送 県会報106号、全連退年間紀要発送
- 3・28 全連退からの調査報告・全連退情報等の各郡市への提供を行った。

※年6回の事務局会を実施した。

郡市だより

Ⅱ鹿角だよりⅡ

令和七年度のあゆみ

事務局長 石井和光

四月二十四日に、北教育事務所鹿角出張所長をはじめ、鹿角市教育長、小坂町教育長、鹿角校長会長を来賓にお迎えし、令和七年度定期総会と懇親会を開催した。定期総会の出席者は二十八名、懇親会も二十八名であった。新規会員は三名である。

九月五日に、退職校長会と現職校長会の共催による第五十回教育懇談会を開催した。

講演会は、湯瀬ホテル取締役総支配人の古川哲平様をお迎えし、「ホテル事業再生を通して見た地方における課題と地域の子供たちへの期待」を演題にご講演いただいた。創業百年以上の歴史を持つ老舗ホテルの経営を受け継ぎ、観光客だけでなく地元からも愛されるホテルとなるよう日々経営努力されていることや子供たちに地元へのプライドをもたせることの大切さなどが話された。

懇親会では、講師を囲みながら退職者と現職校長が交流し、話題のつきない、楽しいひとときを過ごした。講演会の参加者は四十名、懇親会の参加者も四十名であった。

理事会は、第一回を四月、第二回を六月、第三回を八月、臨時に十月の県研修大会の発表内容を確認する会を九月、第四回を二月に開催した。

Ⅱ大館北秋田だよりⅡ

現職校長との合同研修会

事務局長 佐藤久生

三年ごとに開催している大館北秋田校長会との合同研修会が十一月二十九日(土)プラザ杉の子を会場に行われた。伊藤栄二県会長をはじめ来賓の方々、現職二十四名を含め、計六十四名の参加を得た。開会行事では来賓挨拶のほか、今年度めでたく傘寿(八十歳)を迎える一名に長寿者祝い品を贈った。

研修会は「心豊かに生きる道を求めて」のテーマの下、次の二名が実践発表を行った。

現職からは大館市立山瀬小学校の藤原寿雄校長が「メディアコントロールを核とした生活習慣改善に関する効果的な教育活動の推進」と題し、昨年七月の東北連小秋田大会で発表した研究内容を紹介した。

退職からは伊勢堂岱縄文館の中嶋俊彦館長が平成三十年代に続き二度目となるが「縄文遺跡を未来につなぐ、伊勢堂岱遺跡の価値及びその利活用と保存」と題し、世界遺産登録以後の活動を中心に発表した。

その後の懇親会では、恩師と教え子の久し振りの再会もあり、思い出話に花が咲き親睦を大いに深めることができた。実り多き合同研修会であった。

同日、地区会報第十九号を発行した。「会員からの声」短信」と新入会員からの「校長職を終えて思うこと」をそれぞれ自由に綴っていた。

Ⅱ能代市山本郡だよりⅡ

今年度の主な事業を振り返って

事務局長 畠山員範

今年度は各事業が予定どおり実施された。

①総会・講演会・懇親会(4月26日開催)

会員と来賓を含め31名が参加し開催された。事業報告や決算、事業計画、予算案等が原案どおり承認された。その後、役員改選が行われ、佐藤敬顕会長が再任された。総会終了後、今年度は例年7月に開催されている郡市校長会との共催である教育懇談会(3年に2回実施)が実施されない年度であることから、能代市消費者センター副所長の櫻庭一也氏を講師に迎え、「特殊詐欺・悪質商法とそとの対策」と題して講演を行った。また、懇親会には30名の参加があり、会員相互の懇親を深めることができた。なお今年度の新入会員は8名である。

②会報・幹事会等

6月に事務局だよりを発行し、総会の様子や新役員、地区世話人、新会員等の紹介を行った。12月の会報57号では、これまでの内容に加え、今年度末で閉校となる3中学校の紹介記事を掲載した。また、正副会長・幹事会を1回、会長・幹事会を4回開催し、会員の情報交換や本会及び県退職校長会の活動状況の把握に努めた。今後は、正副会長・幹事会、世話人会、理事会を1回ずつ予定している。

Ⅱ男鹿市だよりⅡ

風と海の学校 あきた

事務局長 浅井 繁 樹

「玄友会」は、男鹿市内小・中学校現職校長と元校長の会である。今年度の玄友会総会・研修会は、十月三日に県立男鹿海洋高校で開催した。研修会は、本会会員で元男鹿海洋高校長の船木和則氏が「風と海の学校 あきた」の施設を案内しながら概要説明を行った。

当施設は、日本郵船と日本海洋事業が出資し、海洋高校実習棟などを利用した日本初の民間洋上風力発電向け訓練センターで、船木氏は顧問として訓練指導を担当している。

見学は、プールを活用した洋上風力発電施設維持・管理の基礎訓練の説明と、操船シミュレータ体験であった。プールは、建設費四億八千万円、最深部は水深十メートルもある。操船シミュレータは、作業員を安全に洋上風力発電施設に輸送するための操船訓練ができる日本初のプログラムである。

洋上風力発電向け訓練は国際条約に定められており、これまで北九州市で受講していた。それが当施設で受講できるので事業者からは旅費等の経費節減に繋がるので大変喜ばれている。また、本施設は洋上風力事業の人材開発のみならず、多くの日数を費やして関係者が受講するので、宿泊施設新設など地域の関連産業活性化にも寄与している。

Ⅱ秋田市だよりⅡ

今年度を振り返って

事務局長 加賀美 俊 一

今年度は、四月二十六日に総会を開催した。参加者数は、昨年度より六名ほど増え、久しぶりに三十名を超えた。講演講師に顧問の佐藤重義先生をお招きし、「テツ旅・各駅停車は格別!!」の演題で、とても興味深いお話を聴けたことが、大きな要因と思われる。総会にて事業計画や予算等を協議し、承認を得て事業をスタートした。

十一月十五日には、現職・退職校長会教育懇談会を開催した。今回は、グループ協議題を昨年度に引き続いて、「学校現場の課題と取り組み」と現職から要望のあった「役職定年後の人生設計について」の二本立てで行った。現職も話しやすい雰囲気、グループ協議が活発に行われ、その後の懇親会も盛り上がった。

年二回発行している会報では、会員のセカンドライフの紹介や新入会員の紹介、現職・退職校長会教育懇談会の様子や感想などを掲載している。会員に向けての貴重な情報発信のツールとなっている。経費削減のため、三月発行分の会報は、退職校長会のホームページ掲載とした。

集う楽しさをアピールしながら、少しでも入会者や事業への参加者を増やしていければと思っている。

Ⅱ由利本荘・にかほだよりⅡ

この一年を振り返って

事務局長 阿部 明

四月十九日に、令和七年度総会並びに講演会・懇親会を鶴舞会館にて開催しました。今年度は八名の新入会員を迎え、総勢二百四名でのスタートとなりました。講演会では、由利本荘市社会福祉協議会の庄司齊氏から、「ひきこもり支援の現状と課題」と題して講演をしていただきました。これまで関わった具体的な事例を取り上げ、家庭支援の重要性や家族の居場所を確保することの大切さを述べられました。福祉分野だけでなく、保健や医療が多職種連携の視点をもって取り組むことが課題であり、私たち一人一人が地域共生社会のあり方を振り返り、できることがないか真剣に考えていく必要性を強く感じました。

十月十一日には、現職校長会との共催で交流研修会を開催しました。今回は、「中学校部活動の地域移行について」を共通テーマとして、本荘由利中学校体育連盟会長菊地一弘氏、由利本荘市部活動地域移行支援コーディネーターの畠山純氏から発表していただきました。中学生の運動部員が、十年前より半数近くまで減少している現状に驚くとともに、クラブ化に向けた今後の動きについて具体的に知ることができました。懇親会も大いに盛り上がり、有意義な時間を過ごしました。

〓大曲仙北だより〓

この一年を振り返って

事務局長 佐藤 心一

総会は四月十九日グランドパレス川端にて、総会出席者五十三名、祝賀会・歓迎会が四十七名であった。会員講話は高橋宗生氏「推し活の効能」秋田ノーザンハピネッツ」で、自身がバスケットに夢中になったいきさつ、そしてちょうどその日の試合をプロジェクトで実況放映し、盛り上がるの会となった。

同好会では、グランドゴルフが六月・九月の二回（延べ二十三名参加）、郷土カルチャーが九月に七名参加「鳥海・象潟の自然と歴史と温泉の旅」獅子ヶ鼻湿原・蛸満寺他」でクマ対策をしながら異形ブナの山を歩いた。麻雀（MCUP）は大曲「大盛館」にて七月・十一月延べ二十一名、四暗刻ツモ大逆転ありで賑わった。ゴルフ（GOLF）は大曲市民ゴルフ倶楽部にて六月・十月延べ四十名、スキーはたざわ湖スキー場一月十八日十名、二月は岩手方面を予定している。地区持ち回り「研修視察旅行」は、「角館町再発見」で十六名参加、神明社、浜田勤吾像、白岩焼き、角館の成り立ち、河原田家訪問等中味の濃い研修となった。九月に現役校長会との「先賢彰徳祭」は玉穂会二十三名、現役四十二名と温泉ゆばにて盛大に懇親を深めた。執行部会でカラオケ同好会誕生の話もあり、会員の親睦・福利厚生に邁進の玉穂会である。

〓横手市だより〓

旭交会結成五十周年を迎えて

事務局長 新田 義孝

四月十九日（土）に開催した総会には、三十名の会員に出席していただいた。その後の研修会では、本会の会員で秋田大学客員教授横手分校長である佐々木均氏から「秋田大学横手分校講座『横手の野鳥を訪ねて』の取り組み」と題して講話をいただいた。野鳥観察がライフワークとなったきっかけから、現在に至るまでの強い情熱に感銘を受けた。

本会の二大行事の一つである「教育を語る会」は、九月十九日（金）に、八名のご来賓、市内の現職校長二十一名と会員三十五名が出席し、盛大に開催された。研修会では、旭交会結成五十周年記念講演として、マジシャン・タレントのブラボー中谷氏から「物語はまだまだ続く」笑いと魔法とチョットの病気」と題し、トークとマジックで笑いと涙と感動をいただいた。引き続き開催された懇親会は大いに盛り上がり、せっかくのおいしい料理もそこそこに、あちこちで交流の輪ができて、中締めを行うのものはばかられるほど、親睦の深まった嬉しい会となった。

多くの皆さんにご協力いただいた「旭交会結成五十周年記念号」も素晴らしいできであり、規約改正等、とても充実した一年となった。会員の皆さんに心から感謝したい。

〓湯沢雄勝だより〓

親睦レクリエーションの取り組み

事務局長 富谷 祥彦

湯沢雄勝退職校長会「萌友会」では、総会、現職校長会との合同研修会、親睦レクリエーション、会報「萌友」の発行を主な活動としている。今回は親睦レクリエーションについて紹介する。

親睦レクリエーションは、年に1回10月に実施しており、軽スポーツコースと文化コースの二つを準備し、幅広く会員の親睦を深めている。

今年の文化コースは、いぶりがっこでおなじみの「雄勝野きむらや」さん（湯沢市院内）を訪問した。工場では、いぶりがっこに適した特別栽培の大根を吊り下げのために紐で編み込む作業、桜を焚き木に使用し火加減など熟練の技術を要する燻煙作業、添加物を使わず素朴な風味を醸し出す漬け込み作業等を見学した。また、機械による包装工程も見せていただき、参加者は初めて見るいぶりがっこ作りに興味津々であった。

素朴で自然な風味を大切に、漬物づくりに情熱を傾けるきむらやさんの姿勢に深く感銘を受け、私たちの地域には、後世に残すべき、また他地域に誇れる、本当に素晴らしいものがあることを再認識した体験となった。

第45回秋季研修大会報告

《研究主題》

退職後の生きがいや在り方をもとめて

令和7年度秋季研修大会が、10月18日に会員62名の参加を得て開催されました。冒頭、伊藤栄二会長は挨拶の中で、県校長会大山裕会長のご臨席に謝意を表した後、男鹿市と由利本荘・にかほの退職校長会の研修会に参加し感銘を受けたことや、各地区の退職校長会が常に高いレベルで研修を継続し、地域教育の振興に貢献し続けていることを再認識したことについて述べられました。また、青森県退職校長会が今年度末で解散すること、一日開催となる令和8年の東北地区退職校長会協議会秋田大会は秋季研修大会を兼ねることから、多数の会員の参加をお願いしたい旨を話されました。

講演会では、元秋田県立大学教授の佐藤先生から、生成AIに関する詳しい説明とAIとの今後の付き合い方について分かりやすい説明があり、目から鱗が落ちた、という方も多かったことと思います。

また、研究発表は鹿角の佐藤先生と、横手市の酒井先生のお二人からお話をいただきました。なお、酒井先生には10月9日開催の山形での東北大会でも秋田県を代表し発表していただいたばかりでした。お二人には、お忙しい中準備いただき感謝申し上げます。

【講演】

人工知能(AI)の過去・現在・近未来

「私たち人間は何ができるのか？」

元秋田県立大学 知能メカトロニクス学科

教授 佐藤 和人氏



最近の生成AIの話をご紹介します。AIは、ちょうど今から2

年前ぐらいからかなり一般的にも使われ始めた。今日は、AIで何ができるのか、我々人間はどういうふうにAIと向き合えばいいのかということについて話していきたい。

I 今、社会で何が起きているか？

今、社会で何が起きているか、そして科学する心というのはどういうものなのか、今の生成AIを総称した形になるチャットGPTとの付き合い方などについても紹介したい。

私は県立大学の本荘キャンパスで機械知能システム学科と知能メカトロニクス学科に所属していた。この中で知能の部分は私の専門であり、研究室は脳情報工学研究室であった。脳情報とは人間の脳の中で行われている情報処理のことであり、ああでもない、こうでもないと考える情報処理をテーマとしていた。

最初に、人間の仕事の価値を下げる要因と

というのはどういふところがあるかというところ、一般的には需要と供給のバランスが重要なので、供給の方が過剰になってくると、なかなか仕事が見つかからないということになる。

そして、技術革新。インターネットの発達によって、消費者の購買行動にも変化が及び仕事の価値を下げる要因にもなっている。今注目されているのは、技術革新。チャットGPTとか生成AIの登場で、世の中の仕事の仕組みもだいぶ変わってきている。

第一次産業革命は18世紀半ばにイギリスで起こり、機械化や蒸気機関車の導入によって急速に生産効率が上がったが、良い面と悪い面とが混在していた。

第二次産業革命はアメリカやドイツが中心となって起こったが、いろいろな機械に電気が使われることによって大量生産ができるようになった。そして、映画やラジオ、音楽などの娯楽でも電気を使ったいろいろな機器が身近なものとして扱われるようになった。

第三次産業革命はいわゆるIT革命。インターネットは、もともとアメリカのダーパ(米国防高等研究計画局)・国防総省だけが軍事目的で使っていたが、一般にも解放するという動きになった。ただ、インターネットを使うと、子どもたちの教育に良くないとかいろいろ議論された。

そして、2015年頃から研究者の間で第四次産業革命というのが言われ始めた。この時の技術的な要素というのは「IoT」。IoTというのは、「インターネットオブシ

ングス (Internet of Things) である。ネットワークに全ての情報機器とかものがつながら、という状態である。このIoTとAI、ロボットの三つの新たな技術の導入によって第四次産業革命が起きるだろう、と言われた。

そして、2023年にチャットGPTが発表され、膨大なデータを利用した産業の効率化が図られるようになった。そして、ディープラーニングという概念が取り入れられ、自動運転車のような不可能と思われることができるようになってきた。

あのオックスフォード大学のオズボーン准教授 (現教授) が10年前に、「未来の雇用」という論文を発表して話題になった。10年、20年後には約半分の人間の仕事がなくなるといふセンサーショナルな内容だったが、実際にはそんなことはない。人間は、進化の中で多様性を身につけてきている。逆に新しいものを人間が作るようになると思う。

産業革命の光を見ると、大きく経済成長してきたし、生活水準の向上にもつながってきた。それから、技術革新とイノベーションにより、効率的な生産と大量生産で、身近にものが溢れている。

逆に、産業革命の影の面から見ると、我々自身の労働環境が変化して社会的な格差が出てきている。また、環境への影響が大きいことも間違いないことだと思う。

また、技術革新の面から見ると、光の部分は、新たなビジネスチャンスが生まれたり、医療や環境、エネルギーなどの分野で課題解

決に向けて貢献したりしている。

一方、影の部分を見ると、雇用形態の変化や労働力への影響は否めない。また、一番危惧されるのは、個人のプライバシーとセキュリティである。あと、情報やAIの活用の有無で社会的格差が拡大するおそれがある。

私は今、生成AIを使っているが、前まで物を調べたりまとめたりするのに、1日かかっていたものが、生成AIやチャットGPTを使うとほんの10分で終わる。

今更であるが、ダーウィンの進化論は、「最後に生き残るのは最も強い種ではなく、賢い種でもない。強くても賢くても、それではやっぱり生き残っていけない。変化に最も敏感に対応する種だけが進化し続ける」と述べている。これはまさにダイバーシティ (多様性) という概念であり、人間が唯一持っているものであると私は思う。これがあるから絶対人類が減びることはないだろう。

人類史上初めて「人工知能 (Artificial Intelligence)」の用語がダートマス会議 (1956年) で使用された。その後、ニューラルネットワークという概念の発展、機械学習の進化と続き、2000年代には、ディープラーニングが台頭し、AIの発展に大きな影響を与えた。

また、AI研究に対する熱意と資金提供が大幅に低下する冬の時代が二度ほどあったものの、2010年代初頭から再びAIへの熱意と投資が高まり始め、今に至っている。そして、専門家のスキルレベルを超

え、高度な生産活動を行う超知能 (Super Intelligence) の登場に備え、国際的な規制機関の立ち上げが急務である。「AIはいずれ人間を支配する」と元グーグル副社長は警鐘を鳴らした。

II 「科学する心」の大切さ！

科学する心は好奇心と探求心。これをどう養っていくか。

仮説を立てたら実験をしてどんどん検証していく実験的なアプローチをやることで、課題解決能力、問題解決能力が養われる。TDKの検証会では、子供たちは、仮説を立ていろいろな先生の指導の中で実験を通して成功することで学ぶことはもちろん、失敗してもその失敗から何かを学び取っている。これが科学する心の原点だというふうに思う。

そういう意味で科学する心を育むためには実践的な科学をやらなくてはならない。とにかく手を挙げて質問して、いろいろなことを間違っていることでも何でもいいから、子どもたち一人一人が積極的に自分の意見を言えるような環境を作っていくことがすごく大事である。そのためには、教師や保護者のサポートは不可欠である。また、科学する心と言えば、創造性とか革新性と言われるが、基本は問題解決と批判的思考である。

SNSのいろいろな情報の中で、その人が言っている主張に共感できるというのにも批判的な思考があればこそである。

学校教育では、情報とか物事に対してしつ

かり立ち止まって、なぜそうなのって考えられるクリティカルシンキングがすごく大事だと思っっている。クリティカルシンキングの要素としてはいっぱいあるが、情報とか意見を批判的に見て本当に信頼できるか、妥当性が本当にあるのかという能力を見つける。それと文章やテキストでも鵜呑みにするんじゃないって、批判的に読み解く能力全体。その情報は、あるものに誘導するバイアスがかかっている。そのバイアスをちゃんと見抜く能力があるか、これはすごく大事である。

Ⅲ チャットGPTとの付き合い方



チャットGPTはテキストベースのコミュニケーションである。質問や相談すると答えられるし、いろいろな最新の情報も手に入る。

入れられるが、一番大事なのはアイデアである。自分の持っているアイデアに対して物知り博士のチャットGPTが会話をしながら、自分が不得意なことでも何でも教えてくれる。ただチャットが教えてくれることをちゃんと批判的な思考、クリティカルシンキング

で見抜く力がないと、間違った方向に誘導されることもある。チャットはあくまでも情報提供を目的にしている専門的なアドバイスや診断を行うことができないから、最終的には専門家の意見を求め、ちゃんと確認することが大切である。

退職後の第二の人生において、我々は今までの経験という宝の山を持つていることを自覚すべきだ。自分が見たこと、感じたこと、悩んだこと。それが知能確保力の原点で、他の人は真似ができないものを持つている。それをどうやって活かして次の世代に伝えていくかということはずい意味のあること。そこに焦点を当てて我々はトライしていきたい。それが時代を豊かに生きることになる。知らないといけない世界はたくさんある。気づくことで見える世界は大きく変化する。知的好奇心こそ持続可能なイノベーションの源であり、AIではなくて、人間が唯一持つAIに勝てる多様性である。頭のラジオ体操として、見る、聞く、話す、自分の体験を語っていくことが健康寿命を伸ばす秘訣と言える。

※講師のご厚意により、講演会資料が県退職校長会HP（1お知らせ ID806）に保存されています。どうぞご覧ください。

令和8年度以降の会報について

今後の会報発行を年1回にすることにしまして、令和7年度の総会で承認をいただきました。その後、事務局で内容等を検討いたしましたので、お知らせします。

- 1 紙媒体での会報発行は年度末の年1回（3月末）とする。
 - 2 前期会報については、紙媒体ではないが会報の形をとり、HPに掲載する。
 - 3 各郡市事務局の負担軽減が図られる会報とする。
 - 4 「巻頭言」については、前期を副会長、後期を会長が担当することとする。
 - 5 「ひとこと」は、副会長、常任理事（理事）が執筆していたが、今後は割愛する。
 - 6 「逝去」及び「祝叙勲」については後期に一括して掲載する。
 - 7 前期に掲載していた「郡市だより」退職校長会に寄せる思い（各郡市2名）は、新入会員の寄稿が中心であったが、今後は割愛する。
 - 8 「会員の寄稿」（各郡市1名）は、前期、後期共に掲載していたが、今後は後期のみ掲載とする。
- ※ご意見・要望等は退職校長会のホームページ（お問い合わせ）にお願いいたします。今後の会報発行の参考にさせていただきます。

会員発表1

幸せな時間の過ごし方

鹿角退職校長会 佐藤良子氏

平成27年3月に大館市立成章小学校を最後に退職、その後すぐ4月から鹿角市教育センターでふるさと・キャリア教育コーディネーターと教育相談を担当した。

I 教育センターでの9年間

(1) ふるさと・キャリア教育コーディネーターとして

① 事業所開拓

児童・生徒の職場見学や職場体験等に協力してくださる事業所の承諾を得、一覧表にまとめた。平成27年4月には80ほどの登録しかなかったが、令和6年には、登録事業所は183になった。

② 職場見学や職場体験のコーディネート

各小・中学校からの依頼を受け、事業所との日時交渉、スクールバスの調整を行った。当日は同行して、活動がスムーズに行われるようにサポートし通信の写真撮影



も行った。小学校の職場見学では、環境衛生センターや花輪浄水場、味噌醤油工場などを、中学校の職場体験では、JA出荷センターや調剤薬局、理美容室など様々な所に行った。

③ キャリア教育講話の講師選定
夢講座など、学校に講師を招いて体験を交えた講話を企画することもあった。

④ 地域振興局との連携事業の企画と実施
教育センターの夏休み企画として、鹿角市の2カ所の事業所を親子で回るなどした。

⑤ 鹿角市福祉総務課との連携事業
医療職を志す小・中・高校生のためのシンポジウムを毎年行い、当日の受付記録も担当した。

聖路加国際病院の看護部長や尾去沢中学校出身の医師の講演や手術室体験セミナーなどを通して、医療職の重要性や魅力について理解を深めてもらった。

⑥ ボランティア活動
長期休業・休日に、企業や保育園などから依頼を受け、各校に参加募集をした。商店街のイベント、保育園の夕涼み会のボランティアなどもあった。

⑦ 長期休業中のお楽しみ体験企画
ネイルアートの学習会、写真撮影会、ピザ作り挑戦など今も続く人気企画である。

⑧ 夢たん通信の発行
児童生徒の活動の様子を写真と感想でまとめた「夢たん通信」を年間20号ほど発行した。夢たんとは夢探求プロジェクトの略称であり、各校の取組の紹介となっている。

(2) 教育相談の担当として
① 教育支援センター「かづのこもれび教室」の補助

不登校、不登校傾向の児童生徒が通級した際の子どもたちの心のケアを担当した。

② 心理判定検査、教育相談の取りまとめ
学校からの依頼による心理判定検査や臨床心理士によるカウンセリングの日程調整。

③ 教育相談活動
悩み事を抱えた保護者の相談を担当した。

II 現在の生活

ラジオ体操やストレッチ、軽めの筋トレなどが毎日のルーティーン。アルパスでウォーキングをすることもある。月・水・木の午前中は体操教室。月1回はエアロビクス教室や習字教室へ。エアロビの仲間と今年4月に小坂康楽館でソーランを披露した。毎年数回の旅行や友達のおしゃべりとランチも楽しみにしている。

そして、民生児童委員、社会教育委員、選挙管理委員、傾聴ボランティアなど、何か役に立てれば、と思い引き受けた。

笑顔、充実感、達成感、幸福感、満足感など楽しい時間はたくさんの人との関わりから生まれると思う。そのためにも心身の健康が重要である。鹿角市教育センターでの9年間は難儀もしたが、子どもたちの笑顔をたくさん見ることができて、とても幸せだった。現在も新鮮で楽しく幸せな時間を過ごしている。これからも幸せな時間は続く。

会員発表2

自然の中で育つ子どもたち

〜里山は子育て道場〜

横手市退職校長会 酒井 浩氏

○はじめに

退職して8年目。現職時代から子どもの自然離れを感じ、休日にボランティアで親子や子どもを対象にした自然観察会を行っていた。そして退職時に他の仕事には一切つかず、自然観察会など自然体験活動に専念しようと考えた。活動日数は打ち合わせや下見を含めて年間100日は超える。今は大変充実した日々を過ごしている。

○本来子どもは豊かな感性を持っている

子ども時代には三度の食事と同じように、自然の中で遊ぶ経験が必要だ。自然体験は五感を磨き豊かな感性を育む。アメリカの海洋生物学者レイチェル・カーソンは、その著書

「センス・オブ・ワンダー」の中で、「全ての子どもは生まれながらに神秘さや不思議さに見張る感性を持っている。大事なことは、私たちがそれを子



どもたちと一緒に再発見し、感動を分かち合うことだ。そういう大人が一人でもいればいい」と述べている。

○モンゴル・カンボジアでの活動について

2019年にモンゴルで植林と小学校で授業をしてきた。植林では、もたもたしている私のスコップを取り上げて手伝ってくれた。小学校の授業ではテレビもパソコンもない環境の中で、一生懸命学んでいる子どもたちの姿がとても印象に残っている。2024年と今年の夏には、カンボジアの小学校で授業と校舎建設のお手伝いをしてきた。昨年は空気が砲の、今年は電気回路の実験をした。二度とも子どもからは前向きで純粋な姿が見られた。今年には日本の子どもを連れて行った。横手の高校生も参加した。校舎建設の際には、どういいうわけか子どもたちがわーっと集まってくれて、煉瓦運びをしてくれた。

○自然体験活動を通しての

子どもの姿の変化について

3年前から子どもの日に自然教室を実施している。キャッチフレーズは「里山へGO! GO! GO!」である。参加費は無料で、地域の里山で親子で遊ぶという企画である。青少年育成横手市民会議の協力を得て実施している。参加者は徐々に増えている。体験を通じて思うことは、子どもたちは直接自然と触れ合うことで、絶対忘れることはないドキドキハラハラ体験をしているということだ。はじめは興味の無かった子どもが、一つの体験をきっかけに毎回参加するようになったり、

最後は達成感や充実感でいっぱい私に抱きついてきた子どもがいたり、親子で一緒に活動することで関係が良くなったたり嬉しかったことがたくさんあった。また子どもたちだけで参加する体験もある。そこでは違う年齢の子どもが先輩も後輩もなくて仲良くなった。様々な活動を通して子どもは着実に変わっていくということを実感している。

○8年活動に参加し続けた

1人の子どもの成長について

小学校3年生の時から、観察会、講演会、講座ともほとんど参加してきた子どもがいる。現在横手高校1年生である。年下の子にとっては、本当にいいお兄さん、憧れのお兄さんに育っている。小学生が「僕もお兄さんのようになりたい」と言ってくれた。それが嬉しかった。ある参加者が「中学生にもなつてなぜこういうものに参加しているの」と聞いていたら、「いやあ、僕はもしこの活動に來ていなければ、ただゲームやってる人間になつてたと思う」と言った。もしかするとそれよりも面白いもの、価値あるものを彼は見つけたのだと思っている。

○これからの課題について

まず活動の予算を何処から捻出するかというところ。また一緒に活動をサポートしてくれる人や、団体の協力が欠かせない。最近ではクマ問題も深刻だ。また子どもたちは毎日色々忙しいので、参加者の確保も課題である。

第51回東北地区退職校長会協議会 山形大会報告(概要)

十月九日～十日に山形市で開催された。本県からは、伊藤会長、米澤副会長、石郷岡事務局長、齋藤透事務局員が出席した。

理事会においては、青森県退職校長会から退会の申し出があり了承されるも、今後も連絡を取り合っていくことで一致した。また福島・山形の両県から大会の一日開催の提案がなされ、他県も了承した。引き続き本県より第52回秋田大会の概要を一日開催案として提案し了承された。

大会の話題提供では、横手市退職校長会の酒井浩先生が「自然の中で育つ子どもたち」里山は子育て道場」というタイトルで、映像を交えながら発表し好評を得た。最後に、伊藤会長が次期開催地代表として挨拶し会を閉じた。秋田大会の概要は次の通りである。

第52回東北地区退職校長会協議会秋田大会

開催日 令和八年十月十五日(木)

会場 ホテルメトロポリタン秋田

日程 (詳細は各県との調整の上決定)

理事会 11時～11時45分(受付10:30～)
大会 13時～15時35分(受付12:00～)

①開会行事 ②講話

③話題提供(岩手県・宮城県)

④理事会報告 ⑤閉会行事

親睦懇親会 15時45分～17時45分

会員の(ご)逝去 (敬称略) 心からご冥福をお祈りいたします。(10号以降)

氏名	年月日	住所	氏名	年月日	住所
山田 健三	7・8・5	神奈川県鎌倉市	三浦 彬	8・1・7	にかほ市院内
鈴木 泰明	7・8・20	鹿角市十和田錦木	高橋 孝芳	7・8・26	大仙市大曲
成田 友治	7・12・13	鹿角市花輪	関 陽之助	7・7・3	大仙市大曲
佐々木邦夫	7・10・20	北秋田市米内沢	高橋 孝芳	7・8・26	大仙市大曲
佐藤 貞三	7・8・26	能代市松美町	橋本健次郎	7・10・7	仙北市西木町
工藤 英美	7・9・22	八峰町八森	木村 恭己	7・12・19	大仙市川目
畠山 紘	7・11・20	能代市青葉町	佐藤 昭春	7・8・14	横手市雄物川町
中川 七郎	7・12・31	能代市字上柳	高橋 功二	7・9・3	横手市平鹿町
石山 輝夫	7・9・6	秋田市下北手	山崎 俊郎	7・9・14	横手市南町
加々谷佐紀子	7・12・7	秋田市東通	佐々木 宏	7・10・3	横手市雄物川町
小川 博	8・2・8	秋田市檜山	石川 義和	7・11・13	横手市金沢
佐々木 勉	7・6・19	由利本荘市石脇	高橋 宏	7・11・27	横手市十文字町
田口 栄二	7・7・6	由利本荘市二番堰	高橋 晋	7・12・22	横手市市内
畠山 忠男	7・7・12	由利本荘市二番堰	佐々木次男	7・12・27	横手市南町
鈴木 憲一	7・8・2	由利本荘市田町	小西 眞	8・1・26	横手市雄物川町
			沓澤修太郎	7・4・17	湯沢市駒形町
			小嶋 哲夫	7・6・13	湯沢市清水町
			金 勝治	7・8・23	湯沢市小野

従五位
高齡者叙勲(瑞宝双光章7・9・1)

従五位瑞宝小綬章

従五位

正七位

従六位瑞宝双光章

会員寄稿

じわり生きがい

このひととき

半農半漁、時折奉仕活動



鹿角 駒木利浩

退職してはや二年。初任研を担当させていただいた一年目と比べ、無職となった二年目はさすがに退職を実感しています。知人には「学校を辞めて何しているのか」とよく聞かれ「半農半漁、時折奉仕活動」と生業ではなく生きがいを冗談交じりに答えています。

私にとっての農とは家庭菜園です。始めたばかりで失敗だらけですが、それでも喜んでくれる孫子のために頑張っています。漁とは若い時から続けている趣味の釣りです。当初は、時間ができれば好きなだけ釣りに行ける、たくさんの野菜を育てることができると考えていました。しかし、高齢となった四人の父母の世話や長らくたまった私物の整理などで、考えていたようにはいきませんでした。

そして奉仕活動。現職中は、居住地域の活動に全く協力できなかったため、今は積極的に参加しています。行事の準備や後片付けを通じ、若い人たちが減ってきていることを実感するとともに、地域行事を支えているのは高齢者であることにも気付きました。

初めて参加させていただいた第四十四回秋田県退職校長会秋季研修会の折、発表者の一人が「子どもは地域の宝」を前提に話された「地域の現状を見ると、各種行事を支えている『我々高齢者も地域の宝』と言えるのではないか」という言葉が思い出されました。地域行事への参加を通して新たな出会いと学びがあり、それが生きがいの一つとなってきました。今後も、半農半漁を楽しみながら地域とのかかわりを大切にしていきたいと思えます。そして地域に溶け込み、皆さんから「先生」ではなく「駒木さん」と名前と呼ばれる日が来ることを楽しみにしています。

(令和六年三月退職)

花の命の姿を表現したい



大館北秋田 武石祐子

私が生け花を始めたのは、母の勧めで教職についた頃です。あれから四十年以上も続けられたのは、庭や野に咲く花が好きだったこと、花と向き合っているときは、雑念を忘れる時間であることかなと思っています。とはいえ、若い頃は仕事や部活動の指導に夢中でお稽古はおろそかになっていました。再任用短時間勤務になってから、県の花展や東北六県合同花展に参加する機会を得て、主体的にそして真剣に取り組みました。五百五十年以上の歴史をもつ華道家元池坊の歴史を学び、伝書や花型の技術を体得する

ことは容易なことではありません。草木の命が作り出すすべての姿、満開の花だけではなく、つぼみや虫食いの葉、枯れ枝までも「うつろう命の姿」として捉え、美を見いだすことを大切にしています。個々の草木がもつ性質や表情をよく観察し、草木がどのような環境に育ち、どんな組み合わせをしたらより美しい姿を見せられるのか、感性を磨き、人の心を動かす生け花を目指しています。このことは、子供がどんな特性をもち、どのように人やものと関わることでその子が輝き、活躍できるかという教育にも当てはまると考え、指導力を高めることと同時にますます生け花の世界に引き込まれています。

家元の教授や引立の先生方からご指導いただき、東北六県合同花展のコンクールで賞をいただいたことも大きな励みになり、続けてきたよかったと思っています。昨年二度目のコンクールに参加しましたが、納得できる作品はできませんでした。今後も、うつろう命の姿を表現するために、生け花の世界にどっぷりとつかっていきこうと思っています。

(令和四年三月退職)

日本語教師として



能代市山本郡 牧野洋悦

文法の時間。「次第」の意味・用法を指導した後で、文作に取り組みさせる。指導事項の適切で正確な定着を図るためだ。学生が次

のような文を作り、発表する。『事故を起こし次第、警察に連絡してください。』（ネパール・男性）『体の調子が悪くなり次第、気にしないでぜひ連絡してください。』（ベトナム・女性）彼らは日本語能力試験N2に挑戦中の留学生である。前件と後件の整合性も悪くなく接続の形も正しい。でも、何となく変な？違和感が残る。すかさず質問する。「この文は正しいですか？助詞の間違いもなく接続も正しいですね。でも、この文法は話者がその状況を待ち構えているときに使う言葉です。事故を起こす、体の調子が悪くなることを話し手は待っていますか。そうではないですよ。待っていません。だからこの文は日本語の文として正しくありません。」と指導。

また、日本文化にも親しんでほしいと思い、風習等について話すこともある。冬至の日のゆず湯やカボチャ、その理由などを教え、似たようなことがあるか尋ねてみた。アフガニスタンからの留学生が応えてくれる。「私の国ではザクロを食べ、親戚みんなが集まって夜遅くまで語り合います」と。カボチャとザクロとの違いはあれど、出発点は似たようなところか。（家に帰って話すと、「貴方はいいわね。秋田に居ながらにして世界旅行ができて」と。ちよつと違うんだが・・・）

私は今、日本語教師として働き、七年になる。東京と秋田で世界中からの留学生と出会ってきた。これからの世界を担っていく若者たちが、日本語を通して夢を実現し、平和な世界を築く手伝いができたらと思っている。

（平成三十年三月退職）

心と体をリフレッシュ



男鹿市
戸田 信彦

退職後、微力ながら会計年度任用職員として充実した日々を過ごしていました。健康診断でイエローカードが出て、病気療養することになりました。まさに青天の霹靂。人生思うようにいかないものです。

退職三年目となる今年、体力回復とリハビリを兼ねて、旅行やスポーツ観戦などに出掛け、心と体をリフレッシュすることにしました。夏の甲子園での金足農業の試合を観戦したときの感動は忘れられません。沖縄尚学との息詰まる投手戦、数々の好プレーへの大歓声と拍手。高校生から元氣とパワーをもらいました。旅行では、歴史や文化に触れ、その土地での料理を楽しみました。昔訪れた地を再度訪れると、違った感覚を抱いたり新たな発見があったりします。年を経て感受性が磨かれたのか、それとも衰えたのか……。人との触れ合いも旅行の魅力の一つです。水戸の偕楽園に行ったとき、秋田ナンバーを見て駐車場係の人が近づいてきました。「田沢湖への旅行で道に迷い困っていたとき、親切にしてもらい感謝している」とのこと。秋田県民として嬉しく思いました。旅先では、外国人と行動を共にする機会もあり、意気投合することもしばしば。外国人への苦手意識も少しずつなくなってきたように感じます。旅行ではハプニングがつきもの。そのときは大変で

も、今となつては楽しい思い出です。

多くの感動を味わい、心と体をリフレッシュすることができたこの一年。今まで興味がなかったことに関心をもつ自分に気付くこともあり、視野が広がったように感じます。健康であることに感謝し、年齢と体力にあつた豊かな生活を送っていきたいと思います。

（令和五年三月退職）

教育人生、更新中



秋田市
星野 和貴

私の退職年度であった令和五年度から公務員の定年延長制度が始まった。私は役職定年を機に、「やり切った」という思いとともに退職した。

退職後すぐに認定こども園の園長として勤務する日々が始まった。片言の言葉で気持ちや伝えようとする子どももいれば、思いの丈を言葉にして語る子どももいる。泣く、笑う、挑戦する、そんな子どもたちの成長の連続の中に身を置き、心が動かされる毎日である。ダイレクトに感情を表現する子どもたちと向き合う中で、乳幼児期の体験や関わりこそが、その後の人格形成の確かな土台になることを、日々の子どもの姿を通して実感している。小学校教育とは異なる視点から「育ちの原点」に立ち会えることに、大きな学びとやりがいを感じている。

プライベートでは、退職一年目にこれから

の生活を見据えて自宅をリフォームし、日々の暮らしを整えた。二年目の今年度は、退職した妻と旅に出る時間をつくった。中でも大阪万博で感じた人の熱気と未来への期待は、強く心に残っている。五十五年前にアメリカ館で見た月の石を、再び目にできたことは、胸に迫るものがあり感無量であった。足を伸ばして万博記念公園で太陽の塔を見たときには、小学校一年生当時の無邪気な記憶が蘇った。校長として歩んできた年月と、乳幼児教育の現場で得た新たな気付き、その両方を胸に刻みながら、今は「教える」だけでなく「育ちに寄り添う」教育の在り方を、改めて考える日々である。これまで支えてくれた多くの人への感謝を忘れず、第二の教育人生を、今もなお更新中である。

(令和六年三月退職)

日々は楽しみ



由利本荘・にかほ
高野 浩

東の山際が白み始め、少しずつ燃えるように朝陽が空を赤く染めてゆく。好きな音楽を聴きながら朝焼けの中をウォーキング。橋を渡り川向こうのせせらぎパークへ。どこからか小鳥の囀りが聞こえる。四季折々の草花と出会う。季節の移ろいを見つけてはスマートフォンのカメラに収めながら歩くことが朝の楽しみだ。自然に包まれ心も体もリフレッシュされて私の一日がスタートする。

本荘郷土資料館勤務も四年になり、出勤前

の弁当作りも楽しみの一つだ。かつて教職を共にした気心の知れたS氏とは三度目の同職。通常勤務はもちろんのこと、年三回の企画展を良いものにするべく知恵を絞り、企画・運営に当たるのも楽しい。時に、教職時代の思い出を語り合い、笑顔で仕事ができることが、何よりありがたくとでも楽しい。また、毎年二月には近隣小学校の三年生が「昔の道具と暮らし」の校外学習で来館する。クイズ形式で興味関心を引き出しながら、子供たちと一緒に過ごす時間も楽しみとなった。

一日の仕事を終えるとけじめの晩酌。「さて今夜は何を肴に飲もうかな」と考え、料理するのも楽しみだ。クックパッドが先生で、包丁さばきも上手になった。家族と一緒に料理を味わいビールを飲む。嬉しい時間だ。毎週日曜日は、宮城県で開催される東北シニア交流ソフトボール大会出場に向けたクラブの練習だ。年齢を重ねるごとに動きは鈍くなっているのだろうけれど、動けることが嬉しい。六百歳野球大会の試合もあり、シーズン中の練習も試合も楽しくて仕方ない。平々凡々、代わり映えない私の生活だが、全て大切な日々である。「日々は楽しみ」

(平成三十一年三月退職)

あなたの趣味は？



大曲仙北
中村 正孝

「あなたの趣味は何ですか？」と聞かれることがある。「篆刻。ハンコ彫りです」と答

えると、「高尚な趣味ですね」と言われたりする。なぜ篆刻などに興味関心を持ち、彫るようになったのか？

大学四年次、書道の一コマ、仮名講座を受講した。専攻が社会で国語科の書等には縁がないはず。少々、書に興味があり遅い時間帯の講座があつて受講してみようと思つた。書の心得など全くないままの受講だった。

漢字と仮名では使用筆も墨も紙も違うことなど知らぬまま、友人が貸してくれた書道用具一式を使用。だが用具は漢字用であつた。

三月、卒業展示会があり出品することに。やつと作品を仕上げ先生に持参すると、「君、印は？」と聞かれ、「持つてません」と応えた。指導教官の印を捺してもらい出品した。この時、書における印の重要性を認識した。それが篆刻の最初のきっかけであつた。

第二のきっかけは、職に就いてから「中村君、ハンコ作ってくれないか？」と上司に依頼された。篆刻に興味はあつたが、用具もない、作り方も全くわからないままに承諾する羽目に。彫刻刀など手持ちの使いそうな道具で「白雲」と彫つた。数年後、前の依頼者から再度印を依頼された。書の師匠がハンコ屋で彫つた印は綺麗過ぎてダメだからその理由だとか。なぜ私に二度までも刻印を依頼したのかは未だに不明。以来、印材や関係用品を買い揃えて、手持ちの印材は大小五十個超え、印符箋も二十冊程が書棚に並ぶ。

挙式時に新郎新婦に対する印を、教員時代は卒業記念に、また書仲間の雅号を彫つたりしている私の趣味の一つが篆刻である。

(平成二十年三月退職)

リタイア後の深呼吸



横手市
石川 淳

三十代から両親の趣味の畑にかり出され、特に収穫時に重宝がられました。それがきっかけかどうかは分かりませんが、現在も四十種類ほどの野菜や果物（若干）を育てています。早朝と土日を中心に世話をしているのですが、シーズンに入るとかなりハードですが、雪が降ると「冬休み！」でしょうか。

四人の子どもたちがそれぞれ成人し、おかげさまで小中学生から幼児まで孫が七人になりました。春・夏・冬休みには、この七人の孫たちが全員集合します。この長期休みをどう過ごさせるか、年齢も性別も違う七人です。でも毎回悩みの種なのですが、一方で楽しみでもあります。自宅から一、二時間で「海や山、湖や滝」など、アウトドアを楽しめる場所に行けます。キャンプ場やコテージ、時にはプールやスケート場なども活用し、大声で笑って楽しんでいる孫の様子を見るのも「じじ・ばば」としての楽しみの一つになりました。

横手市内の小中学生との「ジュニア陸上競技教室」も二十四年目に入ります。また、中学生を対象にした「ジュニアハイ陸上競技教室」も三年目で実施中です。「つなぐ！」ことの喜びを、スタッフと共に共感しながら続けられていることもうれしいこの頃です。メインの趣味は登山で、四十代に入って始

めました。初めは県内や東北の主な山に登りました。その後、北アルプスに魅了され十年ほど登りましたが、コロナ禍以降、体力低下などにより現在も休止中です（笑）。

「そば打ち」「クレー射撃」「カヌー」「トレッキング&山菜採り」「自治会長」などアウトドアを中心に様々な活動をやっていますと、年齢や職業など違う方々との出会いも多く、毎日が新鮮で楽しい時間を過ごさせてもらっています。

今後、年齢と共に少しずつ削っていかねければならないとは思いますが、まずは自分の健康のバロメーターと思い「深呼吸」。これからも楽しく続けていけたらと思っています。（令和二年三月退職）

しまなみ海道の旅

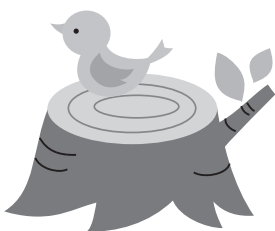


湯沢雄勝
富谷 祥彦

昨年10月にしまなみ海道を自転車で横断してきました。しまなみ海道とは広島県尾道市と愛媛県今治市を結ぶ全長約60kmの本四連絡橋で、そこには歩行者自転車専用道路が整備されている。瀬戸内海に浮かぶ島々とそれらを結ぶ橋が織りなす絶景、迷わずに走破できるように引かれたブルーラインや気軽に立ち寄れる休憩所の設置などから、サイクリストの聖地とも呼ばれている。

当日は最高の天気で朝8時頃に愛媛県今治市のホテルを出発。最初に目指すのは大島。

大島に渡る来島海峡大橋からの眺めは、空と海の碧さに加え、島の緑、遠くの船が残す白波とまさに絶景。さわやかな風に吹かれながらの小休止の後、伯方島へ。伯方島ではビーチに立ち寄りソフトクリームを。10月半ばではあるが、海水浴を楽しむ外国人の姿も見られるほどの気候の良さ。大三島でサイクリストの聖地碑前で写真を撮り、生口島へ。愛媛県今治市の大三島と広島県尾道市の生口島を結ぶ多々羅大橋には、サイクリングロードにも県境が示されていた。昼食は生口島で蛸天井卵とじを。尾道まで26kmの表示がありゴールが見えてきた。穏やかな海を見ながらジェラートを食べた後、お土産のはっさく大福を買って因島へ。「村上海賊の娘」を読んでいたので立ち寄りた場所があったが、時間と残りの体力を考えスルー。向島から渡船に乗り、尾道に着いた時は夕方6時だった。瀬戸内の大小6つの島を自転車で行く、走行距離80kmのしまなみ海道の旅であった。今回はしまなみ海道走破を主目的としていた。今回はもう少しゆっくと、瀬戸内の島々を味わいたいと思う。（令和五年三月退職）



祝 叙 勲

高橋 弘	鈴木 勝一	高橋 悦央	加藤 尚	佐藤 忠禎	小野寺 勝也	新関 正廣	伊藤 敬二	須藤 幸紀	菊地 嘉男	奥田 稔	工藤 徳子	宮越 禎子	成田 富蔵	佐々木 淳	蔦谷 睦雄	桂 邦夫	今野 富士夫	氏名
湯沢市下院内	仙北市田沢湖	美郷町六郷	大仙市神岡町	由利本荘市石脇	秋田市河辺	秋田市手形	秋田市飯島	能代市元町	大館市片山	北秋田市浦田	大館市釈迦内	大館市比内町	大館市有浦	大館市柄沢	大館市水門町	北秋田市米内沢	北秋田市伊勢町	現住所
高齢者叙勲	高齢者叙勲	高齢者叙勲	高齢者叙勲	高齢者叙勲	高齢者叙勲	高齢者叙勲	教育功労	教育功労	高齢者叙勲	高齢者叙勲	高齢者叙勲	高齢者叙勲	高齢者叙勲	高齢者叙勲	高齢者叙勲	高齢者叙勲	高齢者叙勲	功 勞
瑞宝 双光章	瑞宝 双光章	瑞宝 双光章	瑞宝 双光章	瑞宝 双光章	瑞宝 双光章	瑞宝 双光章	瑞宝 双光章	瑞宝 双光章	瑞宝 双光章	瑞宝 双光章	瑞宝 双光章	瑞宝 双光章	瑞宝 双光章	瑞宝 双光章	瑞宝 双光章	瑞宝 双光章	瑞宝 双光章	種 類
8・2・1	7・12・1	7・11・1	7・9・1	7・12・1	8・3・1	8・1・1	7・11・3	7・11・3	8・3・1	8・3・1	8・2・1	7・11・1	7・11・1	7・10・1	7・9・1	7・8・1	7・8・1	受章日

おめでとうございます (順不同・敬称略)

【あしがき】
 会報106号をお届けします。
 春到来を待ち望む一方で、冬眠から覚めたクマが食べ物を求めて市街地に出没！というニュースが飛び交うのではないかと危惧しています。
 さて、8ページでお知らせしておりますが、令和八年度からは、前期号（七月末発行）が公式WEBサイト（ホームページ）での掲載のみとし、後期号（三月末発行）については、これまで同様に紙面でお届けする予定です。どうぞ皆様、ご理解・ご協力よろしく願います。

秋田県退職校長会 公式WEBサイト (ホームページ)

URL : <https://stranger28.net/>
 E-mail : admin@stranger28.net

会員専用ページ

・ID (ユーザー名) : marriner
 ・Password (パスワード) : kstn818
(はち いち はち)



※ 会員の皆様はもちろん、現職の校長先生方への広報も
 よろしく願います。